

# 米沢興譲館高校SSH通信

スーパーサイエンスハイスクール

## 東北地区サイエンスコミュニティ研究発表会 / 地球温暖化防止シンポジウム

「地球温暖化防止シンポジウム」および「東北地区サイエンスコミュニティ研究発表会」に参加して  
二年 普通科 女子

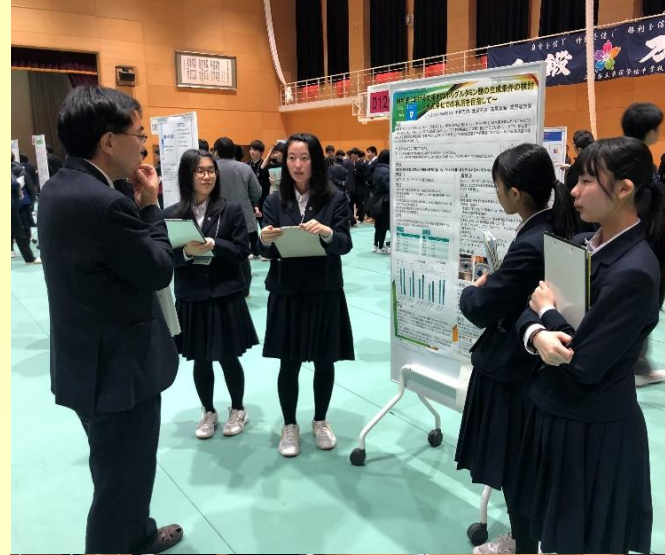
サボニウス型風車について研究した私たち2名は、1月12日に山形ビッグウィングで行われた「地球温暖化防止シンポジウム」、24日には山形県立東桜学館中学校・高等学校で行われた「東北地区サイエンスコミュニティ研究発表会」に参加し、発表を行いました。地球温暖化防止シンポジウムでは、高校生の活動事例報告ということで口頭での研究発表、サイエンスコミュニティではポスター発表を行いました。スライドを用いてステージ上で口頭発表するのは初めてのことで、事前の練習も含めとてもいい経験になりました。質疑応答は、今まで体験したことのない「ワールドカフェ形式」で行いました。発表者と聴衆の数名がグループになって顔を突き合わせ意見を交わすことで、お互いに理解を深めることができました。国立環境研究所の江守正多さんによる基調講演では、地球温暖化をはじめとする地球の危機について学ぶことができました。ただ、世界の現状を受け止め、温暖化対策に励む高校生は非常に少なく、現代の大きな問題であると感じました。また、講演の中で、気候変動対策の必要性を世界へ訴えたことで有名となっているスウェーデンのグレタ・トゥーンベリさんの話題がありましたが、シンポジウムに参加した多くの大人は知っているのに対し、高校生のほとんどは知らないという現状がわかり、大人と高校生の意識の格差を感じました。これからの日本を担っていく高校生が世界の現状や注目されているニュースを知らないということを重く受け止め、私たちは何ができるのかを普段から考えながら生活する必要があると感じました。

サイエンスコミュニティでは、同年代の方からたくさんの意見や感想をいただきました。また、他の高校の研究発表も聞くことができ、自分たちの研究の課題や改善点を発見することができ、大変有意義な発表会となりました。

今回見つけた、自分たちの課題を次回の発表までに解決し、よりよい研究発表ができるように努力し続けたいです。また、このような機会を与えてくださったことに感謝の気持ちを忘れずに今後も活動していきたいです。

東北地区サイエンスコミュニティ研究発表会を通して  
二年 理数探究科 女子

私は「納豆菌における効率的なポリグルタミン酸の生成条件の検討」というテーマの下、この発表会に参加してきました。研究の内容だけでなく、質問に対する受け答えやコミュニケーションのとり方など目を見張るものばかりであり、私はそれらに大きな感銘を受けました。最も驚いたことは、発表を聴く生徒の質問力、理解力、積極性です。これらは発表する側においても重要なことであり、私自身も実践したいと強く感じました。この発表会を通して、実験に関する様々な助言を頂いたり、プレゼンの発表技術について学んだりすることができました。今回はまだ実験途中の段階でポスターを作成したのですが、頂いた助言や学びを活かして3月に行われる校内探究活動発表会に向けて、よりいっそう活動に励んでいきたいと思っています。



1月24・25日(金・土曜日)山形県立東桜学館中学校・高等学校において、東北地区サイエンスコミュニティ研究発表会が行われました。これは東北地区6県のSSH指定校など、自然科学等の課題研究に取り組んでいる高校生が、授業や部活動で取り組んできた研究成果を発表し、発表者との対話を通じて相互評価を行うことで研究のレベルアップにつなげることに。さらに、新たな価値を創造し、国際的課題を解決する人材となる高校生らの研究活動を支援する地域の体制づくりにつなげることを趣旨としています。

本校からは、昨年11月に行われた校内探究活動中間発表会での上位3班が学校代表として参加し、探究内容を発表しました。

また、その中の1班は、1月12日(日曜日)山形ビッグウィングにて行われた環境省東北地方環境事務所主催の「地球温暖化防止シンポジウム」にも参加し、「山形の高校生の取り組み」として事例紹介、意見交換しました。

東北地区サイエンスコミュニティ研究発表会に参加して  
二年 理数探究科 男子

「環境DNAを用いた希少生物・ゲンゴロウ属の調査方法の確立」について研究した私たち3名は2020年1月24、25日に山形県立東桜学館中学校・高等学校にて開催された、東北地区サイエンスコミュニティ研究発表会に参加した。発表会には19校約300人もの参加者が集い、興味深い発表が行われた。

ポスター発表では多種多様な分野の研究発表が行われ、生徒同士の熱い議論が繰り広げられた。口頭発表では、審査員の先生方からの鋭い質問や参考になるアドバイスを受ける良い機会となった。

また、私事ではあるが、他の研究発表会や、科学系カリキュラムで出会った仲間と会うことがあった。そういった点で研究発表の場は単に研究発表をするだけでなく、同じ科学に興味のある人と関わることができ、情報共有や研究意欲の向上に大変良い機会だと感じた。

発表会を通して、研究活動の重要性や楽しさを改めて感じた。今後もより一層研究に勤しんでいきたい。

